

## 「雨がっぱ」記事に違和感

写真は朝日新聞 5 月 7 日夕刊の社会面掲載「医療支援 恵みの雨がっぱ」。この記事を読んで、読者はどう思うだろうか。大阪市の松井一郎市長が寄付を呼びかけ、30 万枚超がわずか 4 日間で集まるなんて、なんと大阪市と市民の連携プレーは素晴らしいのか、コロナ禍の「美談」という感想をもつのでないか。そんな気持ちを抱かせるように、記事は書かれている感じがする。

雨がっぱ報道に、どうも違和感を覚えてしまう。4 月 17 日にレポートしたが、市役所で仕事をしていると、玄関ホールなどが騒がしかった。宅配便の車が次々と到着して、大きな荷物が積み上げられていた。たくさんの荷物は市民から寄付された雨がっぱなどであった。



記事によると、寄付が広がったきっかけは、4 月 14 日に大阪府庁であった医療関係者と吉村知事、松井市長らの会合だった。医療用ガウンが不足していることが話題になり、松井氏は会合後すぐ、代用品として雨がっぱの寄付を呼びかけた。これが「騒動」の始まりである。大阪市民などの「善意」には感謝したい。コロナで亡くなる人が次々と報じられ、病院の資材不足などに強い危機感をもち、「わがこと」として寄付した人が多かったと思う。そんな「善意」には頭が下がるが、行政としての責任、マスコミの姿勢には疑問を感じざるをえない。

医療用ガウン代用品として雨がっぱ寄付を訴える前に、大都市の自治体として現状をリアルに把握して、国への要望や自治体として独自の対策を講じるべきでなかったのか。確か、大阪が雨がっぱ「騒動」で振り回されていた頃、埼玉では国から多くの医療資材が届いたというニュースを NHK が報じていた。大阪府・市は何をしていたのだろうか。こうした事実関係も丹念に取材してほしかった。

雨がっぱで本当に大丈夫なのかという不安に対して、病院関係者や専門家などの意見を取材して報じる必要があった。「代用品」はあくまで代用なのである。私の友人は、医療資材について内外の文献を調べ、雨がっぱリスクについて警鐘を鳴らした。代用品でコロナ感染が広がったら、市民の医療支援から医療事故が発生したら、だれが責任をとるのか。「たかが雨がっぱ、されど雨がっぱ」なのである。

それにしても、大阪のメディアに疑問を感じる人が多い。維新の首長や大阪府・市の情報を垂れ流す報道姿勢である。「大阪モデル」などと一方的に持ち上げているが、きちんと検証・評価してもらいたい。これからもメディアチェックを続けたい。

(2020年5月9日)